

オピオイドは担癌患者の 余命に影響するか

飯塚病院 総合診療科 岡村 知直
緩和ケア科 柏木 秀行
監修 総合診療科 吉野 俊平

分野:緩和
テーマ:治療

症例 65歳 男性

膵癌stage4(腹膜播種)にて通院中。

NSAIDSにて疼痛コントロールしてきたが、数日前から増悪している。

オピオイド導入を提案したが

「麻薬はできるだけ使いたくありません。

麻薬を使うと残された時間が短くなるでしょう」

Clinical Questions

癌性疼痛に関してオピオイド導入は一般的になってきているが...

- ① オピオイド投与量は担癌患者の余命に影響があるのか？
- ② オピオイドに抵抗がある患者にオピオイドを導入するには？

オピオイドは余命に 影響があるのか？

- 日本の一般人5000人を対象にした調査では約30%が「オピオイドは寿命を短くする」と考えている

J Pain Symptom Manage. 2006 Apr;31(4):306-16

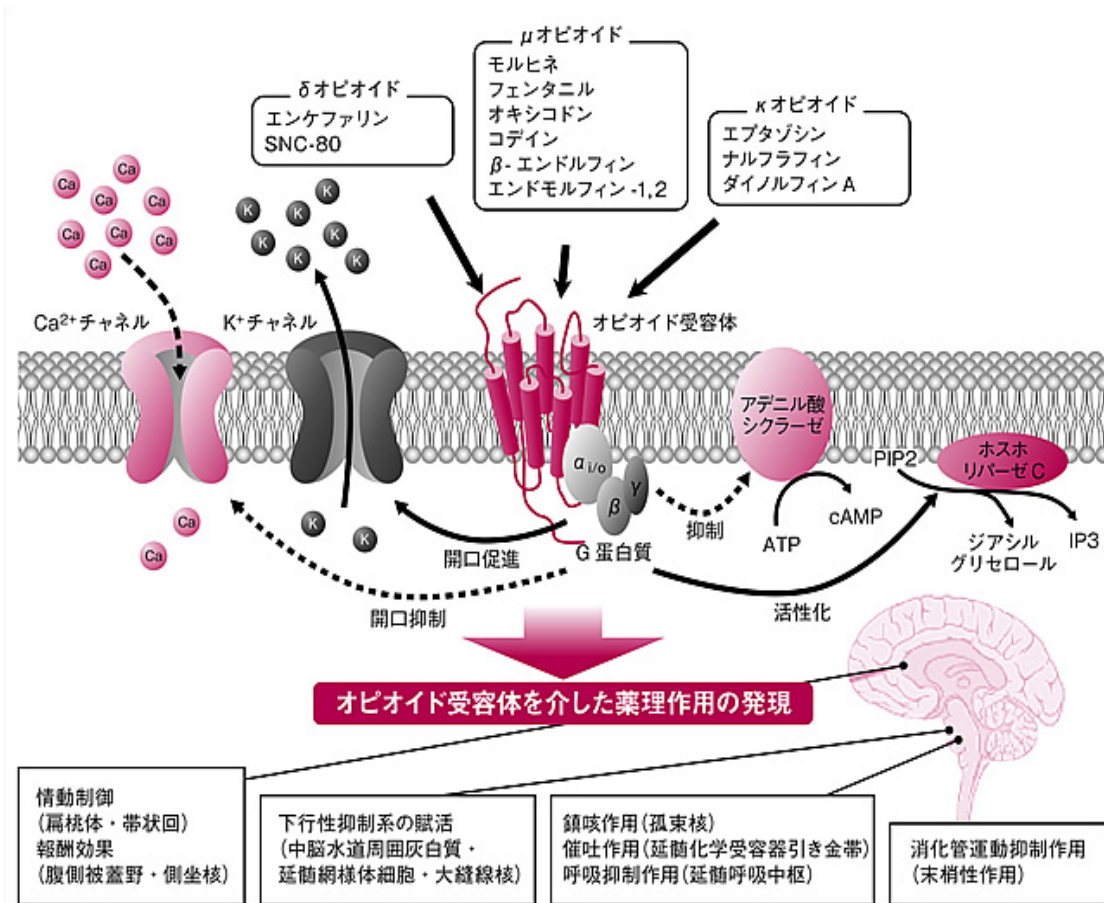
- 医療者も癌専門医以外オピオイドに習熟しておらず、適切な使用量を選択できていない可能性がある

オピオイドとは

μオピオイド受容体に拮抗し鎮痛作用を発現

NSAIDs、その他鎮痛剤と機序が異なる

一般に強い鎮痛作用を持つ



オピオイドの副作用

- 悪心・嘔吐
- 便秘
- せん妄
- 呼吸抑制
- 口内乾燥
- ミオクローヌス
- メサドン使用でQT延長、心室頻拍

呼吸抑制

- オピオイドは延髄の呼吸中枢に直接作用し、呼吸回数を減少させる
- 適切に投与する限り低酸素血症はまれ
- 急速静注、過量投与、急性腎不全合併などがリスクになる

本当にオピオイドの副作用か？

- 新規症状は副作用と間違われやすい

森田達也著. 緩和治療薬の考え方、使い方. 中外医学社, 2014 より引用

	嘔気	便秘	眠気	意識障害
頭蓋内病変 (脳転移、 髄膜播種)	○	—	○	○
高カルシウム血症	○	○	○	○
腹部病変 (腸閉塞等)	○	○	—	—
他の薬剤	○	○	○	○

ホスピスにおいて

ホスピスに入院した患者453例の後ろ向きカルテレビューでは、オピオイド使用量と予後に有意な関連は認めなかった

Cancer. 1999 Sep 1;86(5):871-7

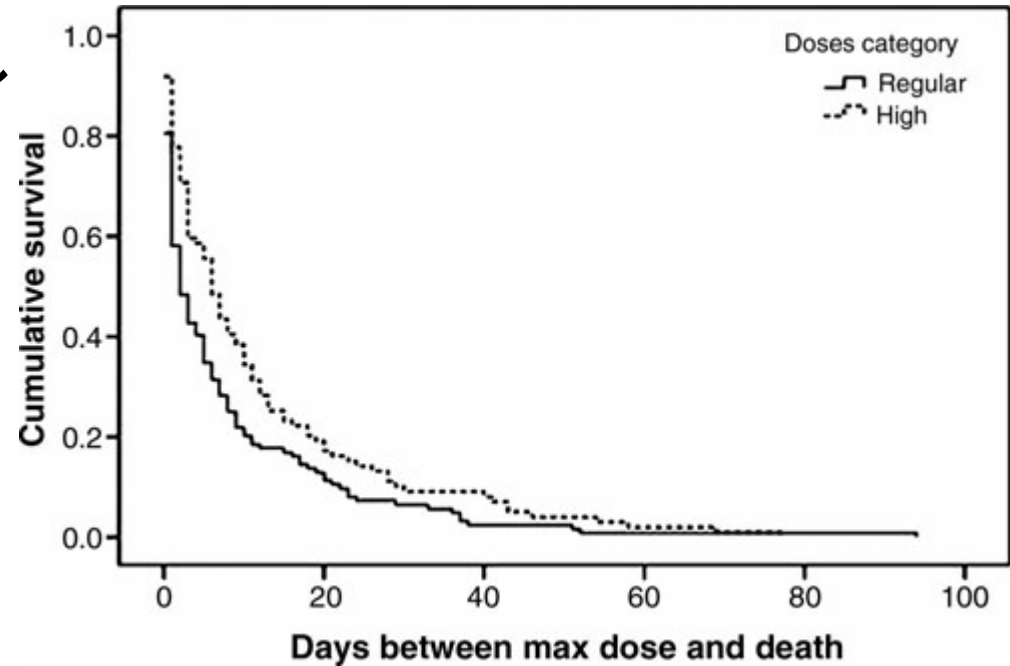
緩和ケア病棟に入院した患者123人の後ろ向きカルテレビューでも、オピオイド使用量と生命予後に関連は認めなかった

Ann Palliat Med 2013;2(4):173-177

在宅・外来患者において

外来にて緩和治療し死亡した患者223人の後ろ向きカルテレビュー

オピオイド高容量群と通常量群で死亡までの日数に有意な差は認めなかった



J Palliat Med. 2010 Sep;13(9):1079-83.

①オピオイド投与量は担癌患者の 余命に影響があるのか？

- オピオイド投与量は担癌患者の余命に影響しないと考えられる
- オピオイド非使用群と使用群を比較した研究はないが、オピオイド自体が余命を短くするという証拠はない

②オピオイドに抵抗がある患者に オピオイドを導入するには？

オピオイドの使用を妨げる因子＝バリア

- ① 患者
- ② 医療者
- ③ システム

患者、医療者ともに誤解が多い！

バリア

患者/家族	医療者	システム
<ul style="list-style-type: none">• 疼痛を伝えたくない• いい患者でいたい• 薬を飲みたくない• 麻薬中毒になる• 副作用が心配• 薬に慣れて効かなくなるかもしれない	<ul style="list-style-type: none">• 疼痛管理に精通していない• 痛みを十分に評価できていない• 患者が中毒になってしまう• 副作用を心配する	<ul style="list-style-type: none">• 疼痛管理の重要性が知られていない• 使用に制限がある

患者側のバリア

- 癌性疼痛に対する麻薬使用自体が、死への恐怖を誘発する
 - 「麻薬は最後の手段」との認識がある
 - 死に向かう過程への手段とのみ感じている
- ⇒医療者とのギャップが生じているが、
患者側から開示することは少ない！

患者側バリアの解消のためには

- オピオイドの使用を拒否した18例の質的研究
医療者のオピオイド使用への自信が、実際のオピオイド導入と関連している

Ann Oncol. 2008 Jan;19(1):44-8.



- 医療者のオピオイド習熟が患者側のオピオイドへの偏見、拒否に対して有効
- 患者のオピオイドへの思いを傾聴する

本症例では

患者

「父は肺がんでしたが、モルヒネが開始されてすぐ亡くなりました。まだしたいことがあるので、痛いのを我慢して、いよいよになったらモルヒネを使ってもらおうと思っていました」

⇒オピオイドの使用について、副作用対策を含めた説明をしたところ納得された

Take Home Message

- オピオイドが癌患者の予後に影響するというエビデンスはない
- オピオイドに関しては医療者、患者間において理解のギャップが生じやすい
- オピオイド導入に際し、医療者側の説明及び患者の思いの傾聴が重要である